

## 東大世界史 2014年 分析

試験時間	(地歴2科目計) 150分	
配点	60点	
問題形式	論述・記述	
問題構成	大問 : 3問	小問 : 16問
分量	論述 : 32行	記述 : 12個
難易度	昨年比: 同~やや難化	平年比: 標準
備考	<p>範囲は近現代からの出題が多く、テーマとしては現代的に重要で注目されている事項が多く出題されている。形式面では、第3問において選択問題が姿を消し、久しぶりに短い論述問題が出題された。昨年と比べると第1問は書きやすく少し易化したと感じるが、そのかわり分量が多くなり、また第2問と第3問がやや重い問題になっているので、全体としては同程度かほんの少しだけ難化か。過去5年程度の平均を基準にすると、標準的レベルだろう。</p>	

大問	小問	形式	難易度	特徴
第1問		大論述	やや易 ~ 標準	時間的には短くテーマもとらえやすいが、空間的には広く、論述量も大きい。列強の進出と抗争の経緯だけでなく国際情勢への影響という大局まで論じるのがポイント。
第2問	全体		標準 ~ やや難	平年比ではほぼ標準的だが、昨年よりは難化しており差もある程度つくだろう。近年の傾向に引き続き、事実の記述が中心のシンプルな論述問題が多くなっている。
	問(1)	小論述	やや難	セルジューク朝とオスマン帝国を書くべきなのはわかるが、ブルガール人は悩む。
	問(2)(a)	記述	易	非常にシンプルな問題。マラッカの支配勢力の移り変わりは重要な論点でもある。
	問(2)(b)	小論述	やや難	内容自体は難しくないが、用語などが含まれず、完全に書ききるのはやや難しいか。
	問(3)(a)	小論述	やや易	事実・内容をまとめるだけでよいが、どこまで正確かつ詳細に書けるかで差がつく。
	問(3)(b)	小論述	標準	経済政策の内容だけでなく、国際経済体制の転換まで書けるかかどうかが問われる。

大問	小問	形式	難易度	特徴
第3問	全体		標準	選択問題が出題されなかった一方、第3問でも久しぶりに小論述の問題が出題された。論述問題がある分、昨年より難化したのが、平年比では標準的なレベルだろう。
	問(1)	記述	易	非常にシンプルで、ほとんどの人が正解できるだろう。
	問(2)	記述	やや易	基本的問題だが、ヘイロータイと間違える人も少しいたかもしれない。
	問(3)	記述	やや易	「中国産」「ユスティニアヌス」などのヒントが多いので、正解を答えやすい。
	問(4)	記述	易	基本的であるし、印象に残りやすい事項なので多くの人が覚えているだろう。
	問(5)	小論述	やや難	論述問題としてはシンプルだが、求められている要素を漏れなく盛り込みたい。
	問(6)	小論述	やや難	農業経営の仕組みだけでなく、国際交易との関連まで指摘することが求められる。
	問(7)	記述	標準	組織名はまず平気だろう。場所も基本知識だが指導者につられて間違える人もいるか。
	問(8)	記述	易	運動名も指導者名も有名なもので、ほとんどの人が答えられただろう。
	問(9)	記述	やや易	有名な法律で、基本的な内容。複数答えることを考慮しても難しくはない。
	問(10)	記述	やや易	基本事項。しいて言うくと、組織のうちどれが最初のものかで迷った人もいるか。